

大麦（はるか二条）栽培情報 3月号－2

令和8年3月16日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

1 生育概況

令和8年産大麦は、播種時期等により生育に差がみられるため、**出穂期も差が生じる見込みです。**そのため、大麦の生育に応じた管理作業に努めます。

また、今後の降雨による影響は大きいため、枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないよう排水対策を徹底します。

予想出穂期（11月25～30日播種の場合）
3月20日頃

※出穂期は、ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日です。

※予想出穂期は今後の気温次第で前後する可能性があります。

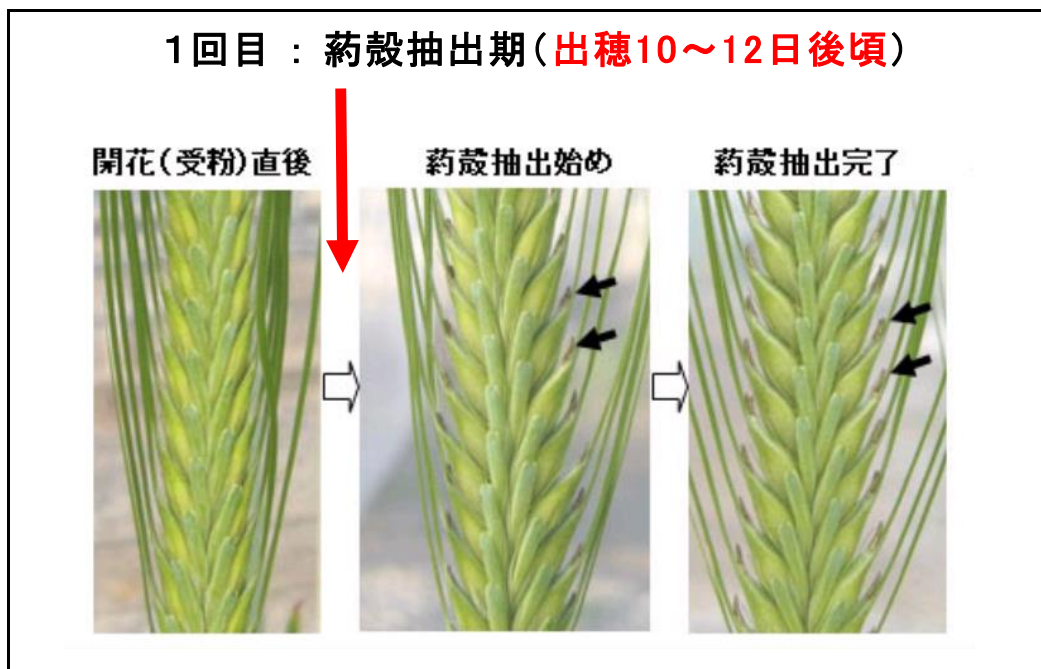
2 赤かび病防除

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。食品の安全性が問われる中で、カビ毒であるデオキシニバレノール（DON）が取り沙汰され、農産物規格規定上、赤かび病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

大麦は赤カビに弱いため、**必ず2回防除を行います。**赤かび病の防除適期は、**葯殻抽出期（出穂10～12日後頃）**です。生育により出穂時期は異なりますので、**必ず葯殻の抽出を確認し、適期防除に努めます。**

<1回目防除の目安>



防除適期（11月25～30日播種の場合）

1回目：3月30日～4月3日

2回目：1回目の5～7日後

※上記の防除適期は、3月20日頃に出穂したほ場の目安です。生育により出穂期は異なりますので、ほ場ごとの状況を確認して防除を行います。

<使用する薬剤>

	薬剤名	10a 当り使用量	備考
粉剤体系	ワークアップ粉剤 DL	3 kg	使用回数：3回以内 収穫7日前まで
液剤体系	ミラビスフロアブル	2,000倍 100 L	使用回数：2回以内 収穫14日前まで
無人航空機 体系		16倍 0.8 L	

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（①適用作物、②使用量や希釈倍数、③散布時期や総使用回数、④有効期限）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！